



美しい 県土づくりNEWS

2017年

3月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第152号
平成29年4月7日発行
編集 県土整備企画室

目次

- 2 主要地方道大船渡綾里三陸線小石浜地区開通！
- 3 高田松原津波復興祈念公園 被災3県で初の起工式を開催
- 4 「大船渡港湾口防波堤完成式」を開催
- 5 災害公営住宅2団地(松原/片岸)が釜石市に完成！
- 6 八幡平アスピーテラインの除雪を始めました！
- 7 水害・土砂災害への備えに関する要配慮者利用施設の管理者向け説明会を開催しました
- 9 いわて花巻空港フェスタ2017を開催しました！
- 10 建設業担い手育成DVDを製作しました！
- 11 平成28年度汚水処理連携セミナーを開催！
- 12 県土整備部の職場紹介～砂防災害課～
- 13 県土整備部の職場紹介～県北広域振興局土木部～



三陸復興

復興関連道路

主要地方道大船渡綾里三陸線小石浜地区 開通！

県が平成23年度から整備を進めてきた主要地方道大船渡綾里三陸線小石浜地区が、3月25日(土)に開通しました。

道路の改良整備により、移動時間が約11分短縮され、地域の利便性向上や、緊急時の輸送、物流・観光面など様々な効果が期待されます。



地域住民や関係者さまの手によるテープカット。

トンネル左側には、大船渡市恋し浜トンネル整備促進期成同盟会にデザインして頂いたレリーフがあります。

主要地方道大船渡綾里三陸線小石浜地区開通！

～昭和 31 年旧三陸村誕生時からの悲願達成～

大船渡土木センター

平成 29 年 3 月 25 日（土）、大船渡市三陸町綾里の恋し浜トンネル綾里側坑口にて、**主要地方道大船渡綾里三陸線小石浜地区地域連携道路整備事業の開通式**を開催しました。

式典では、小向沿岸広域振興局長による挨拶、戸田大船渡市長及び田村県議会議長の祝辞、地元住民から喜びの声の発表、田中大船渡土木センター所長より事業経過報告が行われました。

その後、大船渡市恋し浜トンネル整備促進期成同盟会にデザインして頂いたレリーフの除幕、テープカットとくす玉開被が行われ、開通の記念とこれからの交通安全を願い、地元小石浜の伝統芸能である小石浜飛龍権現舞披露の後開通パレードが行われました。

式典参加者からは、「半世紀以上も待っていた悲願であり、小・中学校へのスクールバス交通等**住民の利便性が上がるのはもちろんのこと、市外からの来訪者も足を伸ばしやすくなる。**」と悲願達成の喜びの声が聞こえました。

これまでの当該区間は、幅員が 4m 程度、曲線半径 30m 以下のカーブが 34 箇所、最急縦断勾配が 12% となっており、本路線最大の難所となっていました。

今回恋し浜トンネルを含む計画延長 2,320m の道路改良を行うことにより**峠道が解消され、移動時間が 14 分から 3 分と、約 11 分の短縮**となり、**救急患者輸送の負担の軽減**、産業面では、恋し浜ホタテをはじめとする**物流面での改善**や、「恋し浜ブランド」による**観光面での誘客の促進**などが期待されます。

また、大船渡地域振興センターと連携して恋愛成就のパワースポットである『恋し浜駅』へ誘う道づくりを企画し、道路施設の工夫を行いました。（詳細は右のマップをご覧ください）



小向沿岸振興局長 挨拶



高田松原津波復興祈念公園 被災3県で初の起工式を開催

都市計画課

国、県及び陸前高田市の連携により整備を予定している「高田松原津波復興祈念公園」について、国の工事着手に伴い、平成 29 年3月5日（日）に国、県及び市の共催で起工式を開催しました。

起工式は、公園整備を予定している陸前高田市気仙町の旧道の駅・タピック 45 付近で行われ、主催者である田中国土交通副大臣、達増知事、戸羽市長のほか、務台復興政務官をはじめ、多数の御来賓及び関係者の皆様に御出席いただきました。

出席者全員で東日本大震災津波の犠牲者へ黙祷をささげた後、津波により被災した震災遺構のタピック 45 を背景に代表者による鍬入れが行われました。

また、式の最後には、気仙町けんか七夕太鼓保存会による和太鼓の演奏が披露され、復興への願いを込めた力強い音色が会場に響き渡りました。



国、県、市等関係者による鍬入れ



気仙町けんか七夕太鼓保存会による和太鼓演奏

高田松原津波復興祈念公園とは東日本大震災津波が、広域にわたり甚大な被害が生じた未曾有の大災害であることに鑑み、復興の象徴として、犠牲者への追悼と鎮魂や、日本の再生に向けた復興への強い意志を国内外に向けて明確に示すこと等を目的として整備するもの。

国、県及び陸前高田市が整備を行い、国営追悼・記念施設(仮称)及び周辺区域は平成 32 年度末の供用を予定しています。



国営追悼・祈念施設(仮称)及び周辺区域の鳥瞰イメージ

「大船渡港湾口防波堤完成式」を開催

～津波からの防災・減災を図る要が復旧完了～

港湾課

大船渡港湾口防波堤は、東日本大震災津波で被災し、平成24年度から国による復旧工事が進められてきましたが、工事が完了し、3月19日（日）に完成式典を開催しました。

国、県、大船渡市の共催により大船渡市魚市場で開催した式典には、国、県、市のほか工事関係者など約150名が出席しました。

達増知事から「湾口防波堤の完成により、地域経済の基盤である大船渡港の一層の活性化を果たし、大船渡地域の復興を確実に進める」、戸田大船渡市長から「湾口防波堤の完成は、大船渡港を核とした創造的復興や、地域経済の発展に大きく寄与する」、長坂復興大臣政務官から「湾口防波堤の完成が復興のシンボルとして、新たなまちづくりの大きな弾みとなることを期待する」と、それぞれ挨拶されました。



達増拓也知事



戸田公明大船渡市長



長坂康正復興大臣政務官

また、アトラクションとして、大船渡保育園の園児による可愛らしい鹿踊りが披露されたほか、園児も加わってテープカットも行われ、式典に花を添えていただきました。



大船渡保育園による鹿踊り



テープカット

災害公営住宅2団地（松原／片岸）が釜石市に完成！

- 沿岸広域振興局土木部
- 建築住宅課

県が釜石市に整備を進めてきた災害公営住宅『県営松原アパート』（60戸）と『県営片岸アパート』（17戸）が完成しました。

この2団地の完成により、県が整備する災害公営住宅の平成28年度末までの完成戸数は、計2,157戸となり、沿岸部全体での完成率は、約8割に達しました。被災された方々の暮らしの安定や地域の復興を願い、引き続き、早期の全戸完成を目指して取り組んでいきます。

【年度別完成戸数】

H24	H25	H26	H27	H28	計
8戸	210戸	356戸	1,025戸	558戸	2,157戸

○松原アパート（平成29年3月完成）



外観（手前が1号棟、奥が2号棟）



三鉄高架を挟み2棟並ぶ姿が特徴的



住棟間を三鉄列車が通過する様子



外観



同地区で最初の災害公営住宅



位置図

◆内覧会開催

入居の開始を前に、入居を予定される方々を対象とした内覧会を開催しました。来場者は、皆興味深そうに内部を見学し、新しい生活に期待を膨らませている様子でした。

○松原アパート（3月26日実施）



○片岸アパート（2月5日実施）



八幡平アスピーテラインの除雪を始めました！

～4月15日の開通を目指してただいま作業中です～

岩手土木センター

岩手土木センターでは、長い冬の間、厚い雪に閉ざされていた八幡平アスピーテラインの開通に向けての除雪作業を3月22日から行っています。

除雪作業は雪崩の危険を伴うことから、安全に十分留意しながら慎重に進めており、3月28日現在、秋田県境の山頂までの10.6kmのうち6.1km地点に到達し約60%の進捗状況です。除雪完了後は、路面の補修やガードロープ等の交通安全施設等の設置作業を実施します。

今春の八幡平アスピーテラインの開通は、**4月15日(土)に岩手・秋田両県の同時開通**の予定です。

雪壁の高さは、最大約7mと見込まれ雪の回廊を十分楽しめる状況です。

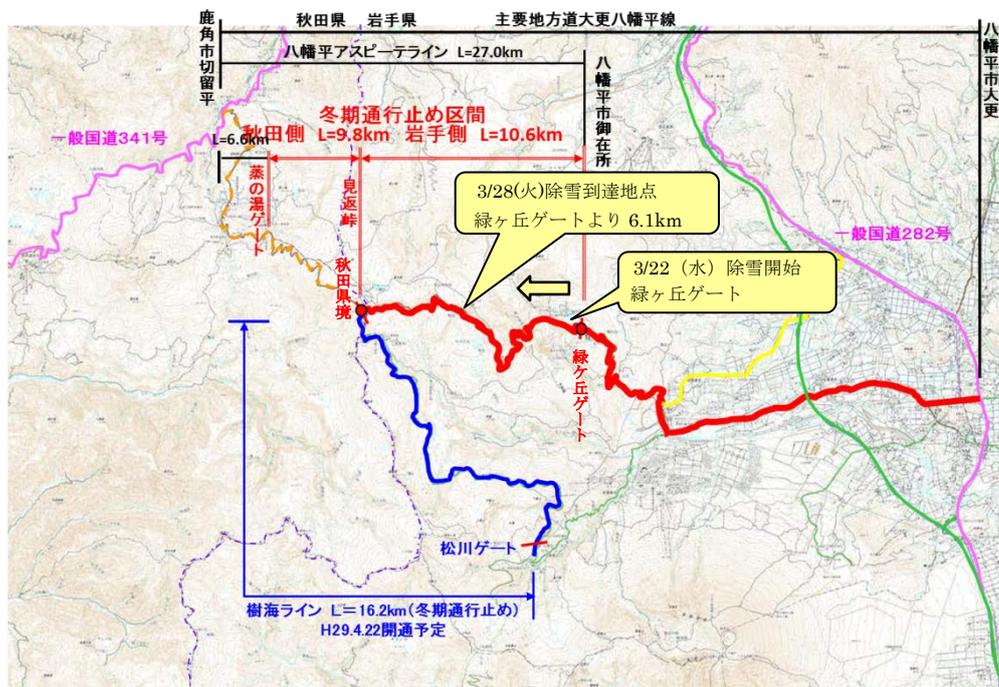
開通と併せて、「**桜と雪の回廊観光キャンペーン**」が**スタート**するほか、(4月15日から5月31日まで)、**4月22日には「八幡平樹海ライン」も開通**予定です。八幡平山頂を周遊する雪の回廊をお楽しみください。



八幡平アスピーテラインの除雪状況
(平成28年度)



アスピーテラインの開通と連動した
「桜と雪の回廊観光キャンペーン」



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。
(承認番号 平22業使、第214-26939号)

水害・土砂災害への備えに関する 要配慮者利用施設の管理者向け説明会を開催しました

河川課・砂防災課

開催の趣旨

昨年8月の台風第10号による豪雨により、岩泉町の小本川などで河川が氾濫し、高齢者利用施設において甚大な被害を受けるなどの人的被害や施設被害が発生しました。

原因として、防災情報が要配慮者利用施設の管理者等に十分に理解されていなかったことや、水害に対する避難確保計画の策定や避難訓練が十分に実施されていなかった点が指摘されました。

これらを受けて、要配慮者利用施設に対して説明会を実施するよう国から通知が出され、岩手県でも、水害及び土砂災害に対して適切な避難行動がとられるよう、施設の管理者に河川及び砂防情報等に関する理解を深めていただくために、国土交通省及び岩手県が共同で本説明会を開催しました。

【要配慮者とは】

- ・高齢者、障害者、乳幼児その他の特に配慮を要する者（災害対策基本法より）

対象施設

今回の説明会では、岩手県内の厚生労働省が所管する、以下の全施設を対象に実施しました。

- ・老人福祉施設
- ・認知症対応型老人共同生活援助事業の用に供する施設
- ・有料老人ホーム
- ・障害者支援施設
- ・障害福祉サービス事業所
- ・児童福祉施設
- ・障害児通所支援事業所
- ・保健施設

全約3,940施設

開催日程および対象施設数

日時	会場	対象市町村	対象施設数
平成29年2月22日(水)	宮古市文化会館	宮古市・山田町・岩泉町・田野畑村	約250施設
平成29年2月23日(木)	三陸公民館	大船渡市・陸前高田市・釜石市・住田町・大槌町	約340施設
平成29年2月28日(火)	二戸市民文化会館	二戸市・軽米町・九戸村・一戸町	約230施設
平成29年3月2日(木)	久慈市文化会館 アンバーホール	久慈市・普代村・野田村・洋野町	約220施設
平成29年3月8日(水)	花巻市文化会館	花巻市・遠野市	約380施設
平成29年3月9日(木)	北上市文化交流センター さくらホール	北上市・西和賀町	約250施設
平成29年3月15日(水)	奥州市文化会館Zホール	奥州市・金ヶ崎町	約450施設
平成29年3月16日(木)	盛岡市民文化ホール (マリオス)	盛岡市・八幡平市・滝沢市・雫石町・葛巻町 岩手町・紫波町・矢巾町	約1,400施設
平成29年3月22日(水)	一関市文化センター	一関市・平泉町	約420施設
			計約3,940施設

いわて花巻空港フェスタ2017を開催しました！！



空港課

いわて花巻空港をもっと身近に！3月11日(土)、12日(日)の2日間イオンモール盛岡店で開催

平成29年上期ダイヤを周知するとともに、県内の方にいわて花巻空港を身近に感じていただくため開催したこのイベントには、当日の天候にも恵まれ、会場には多くの方が来場されました。

イオンモール盛岡の大きなステージでは、空港関連会社らの工夫を凝らした楽しいステージに会場が盛り上がりました。

各コーナーでは、JALがパイロットや客室乗務員の衣装に着替え写真を撮るコーナーや、FDAのカラフルな機体を見ながらぬり絵をするコーナーなど、空港フェスタならではの特色ある内容で、来場者はお祭りの縁日のようにそれぞれのブースを回って楽しんでいました。



写真パネル展「東日本大震災 あの時いわて花巻空港」

イベント会場には、東日本大震災の発災時のいわて花巻空港の様子と、空港が救援活動で活用された様子を撮影した写真を展示しました。来場者に興味深く見ていただくことができ、空港が果たした役割を広く知ってもらうことができました。



多数のご来場、ありがとうございました！



建設業担い手育成 DVD を製作しました！

「まちをつくり 地域を支える 安心を未来へつなぐ建設業」

盛岡広域振興局土木部

平成 28 年 12 月に開催した「第 13 回土木合同セミナー」をきっかけとして、**台風第 10 号災害の応急対応などを盛り込んだ「建設業担い手育成 DVD」**を製作しました。

岩泉町の現地災害対策本部長として赴任した浅沼盛岡広域振興局長が、特に国道 455 号の復旧において 24 時間体制での作業により早期開通ができた対応状況を目の当たりにして、「**様々な面で県民の安全・安心な暮らしを確保する上で建設業がいかに地域に貢献しているか丁寧にアピールしていく**」ために製作に至りました。DVD には**応急対応に尽力された各現場の状況や災害現場におけるドローン 3D 空間計測の状況**などを盛り込み、構成と演出を工夫しました。

今後は、**学校や関係機関へ配布**し、映像を見てもらうことで「建設業はやりがいのある仕事だ」と感じてもらえるよう取り組みます。さらに、**関係機関と協力して学校での出前授業**を進めていくこととしています。



企画・製作 盛岡広域振興局土木部

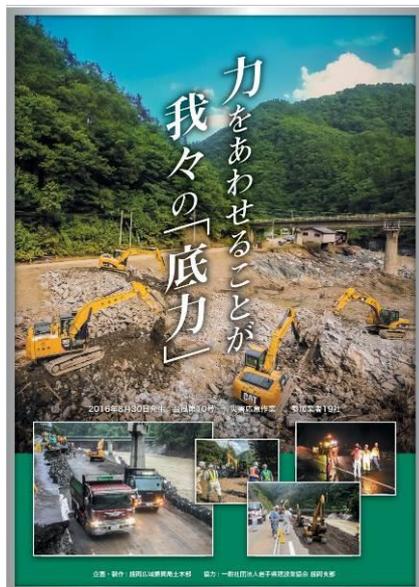
協力 (一社)岩手県建設業協会 盛岡支部
(一社)岩手県測量設計業協会

※DVDには10分用と3分用の映像と、PR用ポスターのデータを保存しています。

構成と演出のポイント

- 身近な話題から入ることで関心を持ってもらい、「自分が働くとしたら」と考えるきっかけをつくっています。
- ドローンによる建設業の新技术を紹介し、操作や設計の状況を写すことで関心を高めています。
- 台風第10号災害現場の作業前と後の写真を連続して見せることで災害応急の成果を表現しています。
- 現場の声として、女性技術者のインタビューを入れ、実際に働く人のリアルな気持ちを届けています。
- 災害応急対応に携わった建設企業の方々が語った「技術継承の必要性」を未来へつなげるイメージでまとめ、建設業が社会に果たす役割の大きさをアピールしています。

PR用ポスター (A1版)



平成28年度汚水処理連携セミナーを開催！

下水環境課

「平成 28 年度汚水処理連携セミナー」を、平成 29 年 2 月 14 日(火)、エスポワールいわて(2階大ホール)において開催し、県内各自治体の担当者や関係団体の職員約 80 名が参加しました。

本セミナーは、行政と関係機関が連携し、**汚水処理事業について効率的かつ適正な整備、運営管理手法や課題解決などの情報共有を図る**ことを目的として毎年テーマを定め、平成 14 年度から汚水処理関係機関※が合同で開催しているものです。



(公財)岩手下水道公社 青柳理事長

岩手県では、東日本大震災の影響により汚泥の有効利用度が落ち込んでいましたが、近年は回復してきています。また、昨年度に改正された下水道法においては、汚泥を燃料や肥料として再生利用するよう努めることとされており、今後は一層の再利用化、エネルギー化が望まれています。

このような背景から、今年度は「**汚水処理事業における汚泥処理**」をテーマとして、石川県環境部の山根正義氏から、汚泥から発生するメタンガスを有効活用する先進事例を、一関市からは、集落排水事業における事例をそれぞれ発表していただきました。

今後このセミナーを通して汚水処理に携わる関係機関の連携を図り、衛生的で快適な生活環境の確保につなげていきます。

○当日の発表から

【事例発表】「メタン活用いしかわモデルについて【石川県の事例】」

石川県環境部環境創造課 生活排水グループ 専門員 山根 正義 氏

石川県で取り組んで行っている「メタン活用いしかわモデル」の仕組みと経緯について、珠洲市と中能登町の事例を挙げ、**小規模処理場であっても、汚泥を集約しメタン発酵することで、ガス発電や汚泥の減量化が実施可能**となることが紹介されました。

この取組に興味を持った自治体から、多くの質問が寄せられ、今後の汚泥処理を考えていくうえで非常に有意義な事例発表となりました。



※汚水処理関係機関

- 公益財団法人岩手県下水道公社 (主催)
- 岩手県土地改良事業団体連合会 (共催)
- 公益社団法人岩手県浄化槽協会 (共催)
- 岩手県汚水適正処理推進会議 (事務局：岩手県県土整備部下水環境課)

県土整備部の職場紹介 No.17

砂防災害課

県土整備部は、「県民から信頼される県土づくり」を目指して、各室課がそれぞれの役割を果たしています。各室課が取り組む課題や業務を毎月ご紹介します。

組織の概要

土砂災害から県民の生命と財産を守るために、砂防施設、地すべり防止施設、急傾斜地崩壊防止施設の整備や土砂災害警戒区域の指定による警戒避難体制の整備促進などのソフト対策、また異常気象により被災した公共土木施設の災害復旧事業に関する業務を行っています。

土砂災害対策担当

砂防堰堤等の土砂災害対策施設の整備や土砂災害警戒区域等の指定により土砂災害のおそれのある区域を明らかにし警戒避難体制の整備を促進するなど、ハード対策とソフト対策を適切に組み合わせた総合的な土砂災害対策を推進しています。

また、災害時の警戒避難を促進するため、气象台と共同で土砂災害警戒情報や防災関連情報の提供を行っています。

このほか、国土交通省等との共催による防災学習「砂防堰堤探検隊」や砂防ボランティア岩手県協会等との連携による「土砂災害危険箇所点検」の実施などにも取り組んでいます。



砂防堰堤探検隊（八幡平市）



砂防ボランティアによる
土砂災害危険箇所緊急点検
（台風第10号・宮古市）

災害復旧担当

東日本大震災津波及び台風や集中豪雨等で被災した公共土木施設の早期復旧に取り組んでいます。

河川、道路等の公共土木施設は、日常生活に密接に関係しており、被災した施設の早期復旧を図るため、災害発生後、災害の状況調査、必要に応じた応急工事の実施、災害査定、工事実施、完了確認等の被災から復旧までの一連の事務処理などを行っています。

災害査定状況
（平成28年第3次査定）



国・災害査定官による
緊急調査（岩泉町）

県土整備部の職場紹介 No.18

県北広域振興局土木部



地域概要

県北広域振興局土木部は、三陸沿岸の北端に位置し、所管区域は久慈市、九戸郡洋野町、野田村及び下閉伊郡普代村の1市1町2村となります。

当該地域の大部分が海洋性気候の影響下にあり、夏期にはやませと呼ばれる偏東風が発生し、年間平均気温が10度前後と比較的冷涼な気候で、年間を通じて過ごし易い地域です。

また、ウニやアワビの海産物をはじめ久慈琥珀や大野木工品等、地域資源にも恵まれています。

当部では、東日本大震災津波で被災した公共土木施設等の復旧・整備や洪水・土砂災害対策の施設等の整備を進めるとともに、隣接する経済圏である八戸圏域等との交流・連携を深めながら、地域経済の活性化を推進しています。

組織体制

○平成28年度組織スローガン

成し遂げよう、震災復興！つなげよう、魅力あふれる県北圏域の未来へ！

○組織の特徴

当部の組織は、部長以下5課、1担当及び1事務所（滝ダム）で構成され、職員数は、正職員37名、全国から派遣された職員4名（青森県2名、栃木県1名、島根県1名）、任期付職員7名に臨時職員等31名を加えた総勢79名の体制です。（平成28年度組織体制）

毎年のように新採用職員が配属されるなどフレッシュな職員が多く、明るく活気のある職場です。

なお、平成29年度も新採用職員1名が配属されることになりました。



◎H28 県北土木新採用職員カルテット
左から澤技師、松森技師、藤倉主事、佐藤主事

今年度の主な取組

1 津波から地域住民の生命と財産を守る【洋野町八木地区】

洋野町八木地区は、津波により八木駅を中心とした海沿いのエリアが浸水し、甚大な被害を受けました。当部では、八木地区の北側における地域住民の生命と財産を守るため、防潮堤及び陸閘等の整備を進めており、平成29年度に完成予定です。

◎津波による被災状況及び着々と進む防潮堤の整備状況

写真左：八木地区（県道八木港線）の被災状況
写真中：八木地区南側より望む
写真右：八木南港より望む



2 災害に強いまちづくりと連携した道路整備【県道野田山形線】

野田村は、津波により中心市街地が浸水し、甚大な被害を受けました。当部では、野田村が進めている浸水区域内の住居を城内高台団地へ移転させる災害に強いまちづくりと連携しながら、中心市街地を通る県道野田山形線について、浸水区域を迂回するバイパス工事を進めており、平成29年度に完成予定です。

開通すれば、城内高台団地へのアクセスはもちろん、国が進めている三陸沿岸道路と国道45号とのアクセスが飛躍的に向上することになります。



◎H29年度開通に向けて

写真左：県道及び城内高台団地の整備状況
写真右：県道から城内高台団地へのアクセス状況

3 台風第10号災害からの復旧へ

平成28年8月30日、昭和26年の統計開始以来、初めて岩手県の太平洋側に上陸した台風第10号は、記録的な大雨となり、河川の氾濫等により、道路、河川等の公共土木施設に甚大な被害をもたらしました。

久慈市と盛岡市を結ぶ幹線道路である国道281号は、8月30日から久慈市川井～大川目間の14.1kmの区間において、道路決壊により通行止めを余儀なくされましたが、昼夜を問わず復旧作業を進め、9月13日には全面通行止めが解除となりました。

この迅速な対応は、10月に開催を控えていた国体に向けて、大きな弾みとなりました。

台風第10号により、久慈市内中心部に大規模な浸水被害をもたらした久慈川をはじめとする管理河川においては、広範囲にわたり流木の散乱や土砂の堆積が生じており、再度災害防止に向けて流木や土砂撤去等の作業を進めています。

また、台風襲来時、長内川下流市街地の洪水被害を低減する役割を果たした滝ダムでは、約1,500トンの流木が貯水池に散乱したことから、流木の撤去作業を行い、来るべき洪水に備えたところです。



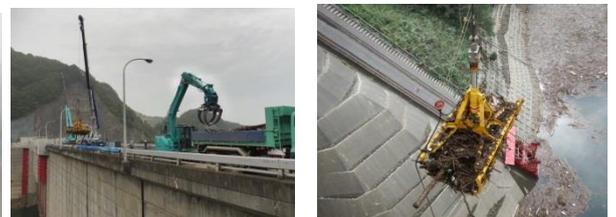
◎国道281号応急復旧の状況(久慈市大川目地区)

写真左：道路決壊による全面通行止め状況(被災直後)
写真右：応急復旧完了により片側交互通行へ移行(H28.9.13時点)



◎流木及び堆積土砂撤去の状況(久慈川)

写真左：流木撤去状況
写真右：堆積土砂撤去状況



◎流木撤去の状況(滝ダム)

写真左：ダム天端道路からの撤去作業状況
写真右：貯水池に堆積した流木の引上げ作業状況

独自の取組等

1 津波から命を守る

当部では、久慈地域の防災力向上を目指すため、久慈地域に住む小・中・高校生等を対象として、津波防災施設の役割や避難の必要性などについて、施設見学や津波についての座学等を行う「津波防災出前講座」に取り組んでいます。

平成28年度は、久慈地域の小・中学校を中心として8回開催しました。



◎出前講座の状況

写真左：陸間の開閉を実際に経験(宿戸小学校)
写真右：津波とはどんなものかを知る(小国小学校)

2 地震に強い住宅を学ぶ

当部では、住宅等の耐震化の重要性や地域の安全安心への認識を深め、地震に強い住宅とはどんなものか、自分の住む住宅や地域の安全を確保するためには何をすればよいかを学ぶため、久慈地域に住む小・中学校を対象として、火災時の体験学習や地震についての座学を行う「木造住宅の耐震対策普及講座」に取り組んでいます。

平成28年度は、野田中学校で開催しました。



◎出前講座の状況

写真左：模型による倒壊シミュレーション
写真右：消防署によるスモークマシンを使用した体験学習
※いずれも野田中学校